

ちょっとだけ!!
フライングディスク
将来構想会議
2020

将来構想メモvol.7(2020/10/20)

Flying Disc Times
presents

<ゲストプロフィール>

川上あい

活動拠点: 九州地区

所属: 長崎大学BOBCATS、U23地区別対抗戦出場

関わり方: プレイヤー

高田裕明

活動拠点: 関東地区

所属: ICU WINDS→Technicolor

関わり方: プレイヤー

<フライングディスクをこうしていきたい>

- ・アルティメットの未来予想図
- ・2028年ロサンゼルスオリンピックの正式種目化

<困っていること / 課題>

- ・アルティメット、フライングディスクの良さ、特徴は？
- ・アルティメットの持つ特性を生かした競技の広め方

＜考えている解決策＞

・他競技とアルティメットの比較

例) ラクロス: 名前を聞いただけで競技が思い浮かぶ

→ アルティメットはまだそこまで浸透していない

→ ディスクに触れたことはあるひとがいる

＝アルティメットを知らなくてもフリスビーという道具は知っている

・1億人フライングディスクファミリー化

成功体験が簡単に積める、道具が手に取りやすい

高いレベルを目指さなくても楽しめる環境づくり

・ほかのスポーツとの協働

セカンドスポーツという立ち位置を意識してみる

スポーツの垣根を超えたり、他のスポーツとパートナーを組む

<論点の整理>

- ・「競技」としてだけでなく様々なアプローチを考える

例1) 教育現場

セルフジャッジやSOTGという精神だけでなく、簡単に成功体験が積める

例2) ディスクの多様性→商品／メディア媒体

ポップアップショップの開催や、チラシとしてディスクを活用する

例3) 男女混合団体種目

オリンピック憲章の改定により性差を問わない「男女混合」団体競技の採用を奨励されている

- ・何をもって「普及」というのか

具体的なイベントやリーグの開催

例: プロリーグ、オリンピックの公式種目化

さまざまな楽しみ方が定着すること

例: プレーする(競技レベル、レジャー)、観戦する、サポート視点、運営
年齢や障害の有無にかかわらずフライングディスクを楽しめる視点

参加者写真

担当メンバー: 杉田彩歌

